

平成27年度 学校評価

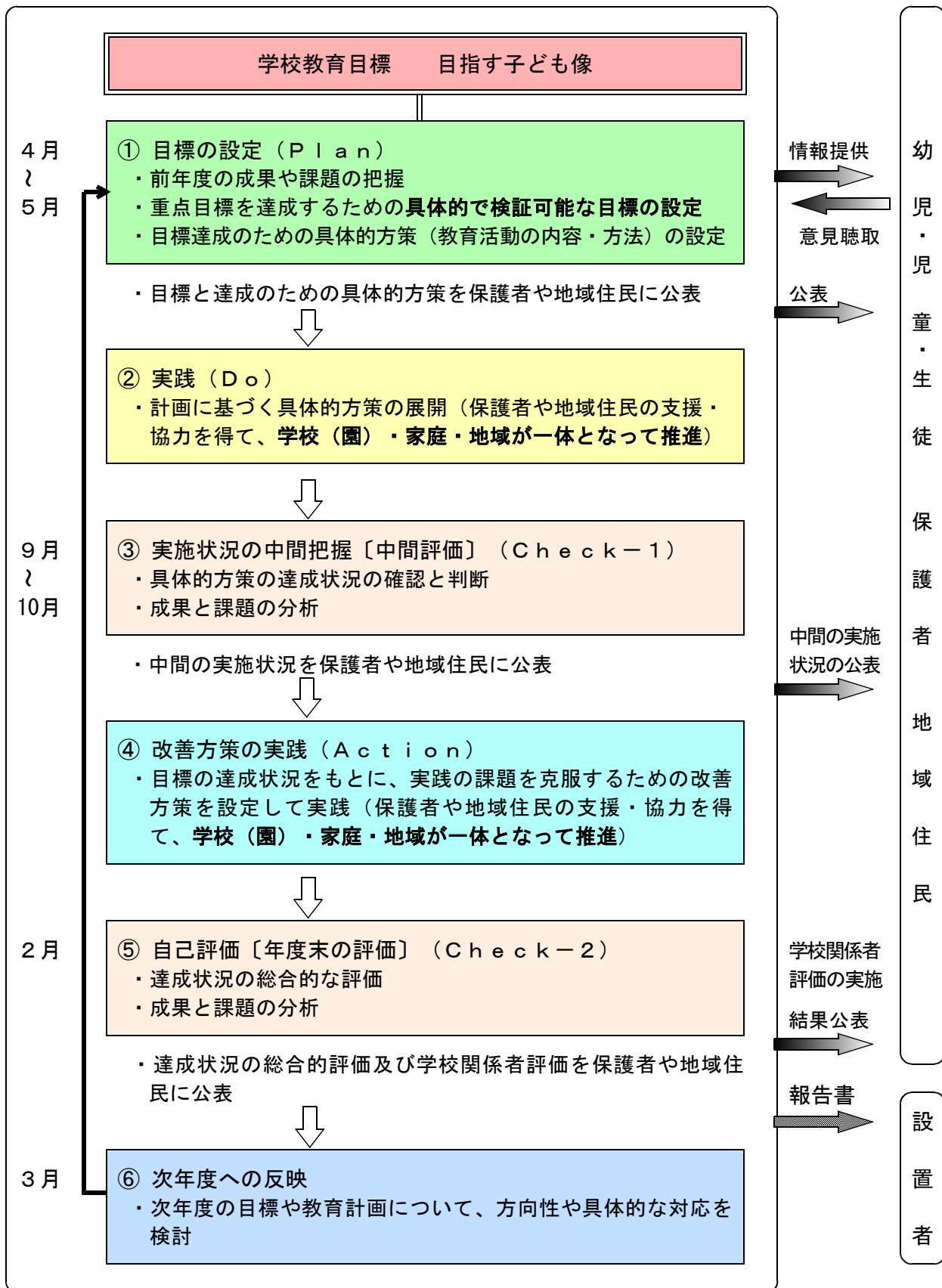
平成27年度 「自己評価」

・生徒指導・地域連携 p 3

・学力向上・進路指導 p 5

・特別活動の充実 p 7

あきた型学校評価システムの進め方



「あきた型学校評価システムの推進」

(秋田県教育委員会 平成20年6月)

平成27年度 秋田県立新屋高等学校 教育計画

1 教育目標

教育基本法ならびに学校教育法に則り、真理を希求する心身ともに健康な「知・徳・体」の調和のとれた人格の完成を目指すとともに、「自尊 自知 自制」の校訓のもと、社会の幸福に貢献できる有為な人材を育成する。

2 教育方針

I 基本的生活習慣の確立

豊かな感性を培い、品性を重んじ、自律的に行動する人間の育成

II 学力の向上

強い目的意識と高い学習意欲をもち、不断の向上を目指す人間の育成

III 特別活動の充実

健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性をもち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成

IV 進路目標の早期決定と実現

早期に進路目標を決定し、その実現に向かって真剣に努力する人間の育成

3 経営方針

I 教育目標実現のため、「生徒の命を守り、心身ともに健全で自律性に富む人間の育成を図る」ことを本校教育の基本的立場とする。

II 重点目標

(1) 自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動のできる心豊かな生徒を育てる。

①地域の学校であることを自覚し、地域の人達から信頼され、評価される生徒を育成する。

②校内外で、挨拶、整容、ルール、時間遵守など社会規範を強く意識した行動がとれる生徒を育成する。

③家庭と連携し、必ず朝食を摂るなど規則正しい生活を送ることにより、学校での諸活動に備えられる生徒を育成する。

④危機意識をもって危険回避を常に心がける生徒、および何が高校生として相応しいか自ら考え、判断して行動のできる生徒を育成する。

⑤スクールカウンセラーや関係機関と連携し、教育相談委員会が中心となって問題を抱える生徒を中心に情報を収集し、全職員が情報を共有して適切な指導ができる体制作りに取り組む。

(2) 学力向上を図る学習指導を研究・強化し、個々の能力・適性を伸ばすきめ細やかな進路指導のもとで、自主的に学習する生徒を育てる。

①朝学習を10分間とし、心を落ち着かせてから授業に取り組ませることにより、学力向上につなげる。

②3分前行動・ベル即授業を励行し、授業の密度を高める。また、机上に不必要なものを置かせないなど、集中力を高める工夫を行う。

③評価項目や手立ての工夫で、評価結果が授業改善に結びつくような授業評価を実施する。

④学習に関するオリエンテーションなどの充実を図り、自学できる態度・習慣を培う。

⑤授業での基礎学力の定着はもとより、併せて補習のあり方を充実させることで、得意教科の強化、不得意教科の克服、最後まであきらめない精神力を養う。

⑥「休養日」の設定や、部活動終了時刻の厳守などにより、学習時間の確保に努める。

⑦教室内環境の整備、校内環境の美化、教室配置の見直し、利用しやすい施設・設備の整備・改善などに取り組み、学習に適した環境作りに努める。

(3) 生徒会活動や部活動の活性化を図り、心身ともに健全な生徒を育てる。

①生徒会執行部を中心に、生徒による自主的な行事の企画・運営ができるように指導する。

②日々の練習を通して、主体性や協調性、最後まで頑張り抜く気力・体力を養う。

③創立40周年に向かう新高の新たな歴史を築く気概をもって、新高生としての本分を十分尽くせるよう、生徒の自覚を促すとともに、それを支える校内支援体制の充実・強化に取り組む。

(4) キャリア教育の充実を図り、自己の進路目標実現に真剣に取り組む生徒を育てる。

①学級担任は、1年次よりキャリア教育を充実させ、生徒の自主的な進路目標決定を支援し、進路実現に向けて必要となる具体的な取り組みを設定させ、指導する。

②学年部は、生徒一人ひとりの進路目標達成のために力を尽くし、生徒の主体性を尊重しながら適切な指導を行う。

③部活動顧問は、部活動の目標が生徒の個性を伸ばし人格の陶冶のために存在することを肝に銘じ、部活動で培った強い精神力を通して進路の実現を図らせる。

④進路講演会や進路別ガイダンスの開催など、あらゆる機会を通して生徒の多様な進路希望に対応する場を設定する。

⑤「総合的な学習の時間」をキャリア教育や進路実現につながる実践的な学習の時間として活用する。

評価領域	生徒指導・地域連携
------	-----------

重点目標	自主的・自律的態度のもとで、規律正しく行動できる心豊かな生徒を育てる。	P
現 状	マナーアップ指導の徹底を重要課題として生徒指導を展開している。身だしなみを整える事に関しては評価を得ることができたが、あいさつの励行に関しては、校内外共にできていないと指摘を受けている。自ら進んであいさつができる、“生き方指導”がこれからの生徒指導の求められる最重要課題である。	
具体的な目標	①規範意識向上に努める。②非行、事故の未然防止と、問題行動時の適切な対応 ③学年部・教育相談部・地域・家庭との密接な連携。	
目標達成のための方策	①全校集会においてパワーポイントを使用し学校内外でのモラルやマナーを説明しロールプレイングでよりわかりやすく行う。生徒自身でポスターを作り全校生徒に注意喚起した。 ②毎朝の昇降口指導、定期的な整容指導で制服を正しく着用させる。問題行動発生時に備え定期的な指導部員の意思の疎通をはかり、発生時には迅速な対応と保護者への丁寧な対応を心がける。 ③職員間の報告・連絡・相談を怠らない。定期的な地域社会との情報交換を行い情報収集を怠らない。	D
具体的な取組状況	①4月、新入生を迎え直ぐに全校集会を開きスクールマナー集会を開催。挨拶の仕方、言葉遣い、制服の着用、学校生活、登下校のマナー、携帯電話の使い方などきめ細かく事例を挙げて徹底させた。生徒、教師でロールプレイングを行いわかりやすく説明した。生徒自身で、盗難、携帯電話の使用基準、海水浴などのポスターを作成し、全校に貼り出すなどの注意喚起を主体的に行った。 ②地域の青少年育成委員の方と月一度の新屋駅での駐輪場指導とあいさつ運動。三ヶ月に一度の職員による街頭指導。 ③集会時には必ず問題行動に関する事例を挙げ注意を促し、全校一斉に行われるアンケートの状況をきめ細かく分析し、問題行動の未然防止に役立てている。清掃ボランティアや地域に設置されている特別支援教育施設訪問を実施し、思いやる心と生きる力を育むと同時に、地域住民とのかかわりを深め、地域の一員としての自覚を持たせている。	
達成状況	①1年生はもちろんだが2、3年生に対しても効果がある。先生方に対する言葉遣いや職員室入室時などの挨拶や言葉遣いも適切に使い分けられるようになった。生徒が主体的に活動する意識が出てきた。その例がポスターを自らの手で作り、全校に貼り出す取り組みとして現れた。生徒会の挨拶運動も年々活気を帯びてきた。 ②昨年度より地域での生活の行動に変化が見られた。 ③定期的な校内巡視、三ヶ月に一度の街頭指導、最寄りの交番や青少年育成委員の方との情報交換で生徒の動向を把握し、問題行動の抑止力にもなっている。地域社会に貢献するボランティア活動にも積極的に参加し、自己肯定感や自己有用感を獲得することができた。	

自己評価	(評価)	(根拠) ①ロールプレイングによるスクールマナー教室の取り組みの効果は十分あった。特に、場面に応じた挨拶や言葉遣いなどは適切に使えるようになったことや、携帯電話の使い方、モラルやマナーなどの問題行動は未然に防止された。生徒自身で、盗難、携帯電話の使用基準、海水浴場での注意などのポスターを自ら作り注意喚起を主体的に行った。 ②三ヶ月に一度の街頭指導の取り組みの成果は規範意識の向上に繋がった。校外での振る舞いは昨年度より向上した。 ③校内外での巡視や様々な機関からの情報収集により生徒指導部だけでの情報提供をきめ細かに行ってきたが、生徒の心の中に落とし込む指導ができなかったことが、懲戒処分者を出すことに繋がってしまった。また、年々スマートホンを使用する生徒が増加し、新たな問題が発生しかねない状況になってきた。先行する技術や生徒の使用技術に対してどのような指導をしていくべきかが課題である。学校周辺の巡視の際に、校外での生徒の生活状況を把握し、学校側からの情報も伝えるなど連携を図れた。	C
	B		

↑
評価基準
↓

- A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価)	スクールマナー集会でのロールプレイングによる説明は生徒達が自信を持って学校生活を送る事に繋がっていると思う。特に新屋駅前での挨拶運動の際の態度は以前と比べ見違えるほど立派になったし、登下校中の態度もマナーよく整然としている。 いじめやスマートホン使用による事件や事故は起きていないようだが、日頃のチェック体制を怠ることなく教師と生徒間の信頼関係を大切にしてほしいし、事故が起きた時は早期に解決する事を目指してほしい。 ボランティア活動など地域社会との関わりに参加する生徒が限られているように感じる。より多くの生徒に参加できる機会を与えてほしい。	C
	B		

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	(評価)	様々な問題に対する初期対応を大切にこの1年間生徒指導を行ってきた。その中で、街頭指導(年3回)、列車指導(年2回)、毎朝の校内巡視、昇降口指導を行う中で、非行、事故の未然防止を心掛けてきた。残念ながら特別指導を受けた生徒が2名出たが、命に関わる大事故はなかった。 また、新たに設けた相談ポストを活用する生徒がいたことが問題行動の未然の防止に繋がり、深刻な問題に発展する前に解決をすることができた。 昨年度作成した学校周辺の交通安全マップと不審者出没危険マップの精度を上げ、生徒の命を守る取組をさらに強く押し進めた。引き続き「命の大切さ、命の尊さ」の教育の実践を継続すると共に、地域社会を後押しできる人材育成を強く深く押し進めたい。	A

評価領域	学力向上・進路指導
------	-----------

重点目標	学力向上を図る指導を研究・強化し、個々の能力・適性を伸ばすきめ細かな進路指導を行い、目標実現のために進んで努力する生徒を育てる。	P
現 状	これまでの学校評価で、進路目標をしっかりと持って意欲的に学習に取り組むことのできていない生徒や家庭学習の習慣が確立していない生徒が少なからずいることが、大きな課題とされてきた。授業改善を通じて生徒の学力の向上を図るとともに、キャリア教育の充実を通じて生徒の精神的成長・成熟を図って将来の目標を明確に持たせ、家庭学習を含めた学習に意欲的に取り組ませる指導が求められる。	
具体的な目標	①授業改善 ②キャリア教育を通じた精神的な成長・成熟 ③進路目標の早期具体化 ④学習習慣の確立	
目標達成のための方策	①授業改善…授業の規律を遵守させ、生徒の主体的な活動を促す授業の実践。授業力向上のための互見授業と授業研究会の実施。学習環境改善。 ②キャリア教育による精神的成長…将来の目標を持たせる進路講話、職業ガイダンス、進路別ガイダンス、大学模擬授業、総学の活用等。キャンパス訪問(1年生)、職場訪問(2年生)の実施。進路に関する読書指導(1・2年生)。 ③進路目標の早期具体化…二・三者面談の充実。学年進路検討会に基づく生徒へのアドバイス。キャリアアドバイザーによる積極的な支援。 ④学習習慣の確立…教科学習オリエンテーションの充実で自学の習慣を培う。授業に活かせる宿題・課題の工夫。朝学習による自学・自習の定着。「部活動休養日」の確保。夏・冬休み初めの「学習強化期間」。全員受験模試・資格試験の実施。	
具体的な取組状況	①授業改善に向けて、授業アンケート、互見授業をそれぞれ2回実施。研究授業は4教科で行った。研修部主催でアクティブラーニング型授業の研修会を実施した。 ②進路別ガイダンス(2・3年生)、進路講演会(1・2年生)、職業ガイダンス・キャンパス訪問(1年)、大学模擬授業・職場訪問(2年生)、進路に関する読書指導(1・2年生)を実施した。 ③二・三者面談の充実。キャリアアドバイザーの職業講話・就職指導。進路検討会(2・3年)。 ④教科オリエンテーション(1年生)の実施。各教科シラバス配付。週末課題・朝学習実施。週1日の休養日「ももさだの日」。学習強化期間、放課後・土曜補習の充実。考査前の学習会。全員模試・TOEIC-Bridgeの実施(1・2年生)。学習時間調査(4回)実施。	D
達成状況	①「授業の規律を遵守させ、生徒の主体的な言語活動を促す授業の実践」というテーマで授業改善を行った。アクティブラーニング型授業も徐々に浸透してきている。 ②進路講話、諸ガイダンス、キャンパス・職場訪問等は、進路目標設定のみならず、職業観や勤労観等の育成に結びついた。2年目となる進路読書指導は定着してきており、AO・推薦入試等に臨む土台作りに役立っている。 ③キャリアアドバイザーのきめ細かな就職指導により、年内に全員就職内定し、難関企業・公務員の合格者も増加した。2年生進路検討会を従来の冬休みから秋に前倒しして実施し、受験生としての自覚を早期に持たせるよう図った。 ④夏・冬休みの学習強化期間に、特別の事情のある生徒を除いて1・2年生ほぼ全員が出席した。ただし、家庭学習時間は各学年とも約1時間/日で昨年並である。	

自己評価	(評価) B	<p>(根拠)</p> <p>①授業改善については、授業における「本時の目標」の明示や互見授業などにより生徒からの評価は向上した。ただし、授業内容に満足していない生徒が83名（昨年112名）おり、改善の余地がある。</p> <p>②「進路目標を持ち意欲的に授業に臨んでいる」、「総合的な学習の時間は充実している」、「夏休み中の学習強化期間にしっかり取り組んだ」、「進路講演会・ガイダンスが充実している」、「進路指導が一人一人の目標達成に役立っている」の項目で、生徒の評価が昨年より向上している。</p> <p>ただし、「家庭学習・宿題にしっかり取り組んでいる」とはいえない生徒、「補習が効果的」と感じていない生徒がそれぞれ168名(昨年174名)、182名(昨年153名)と多いことは、引き続き課題である。</p> <p>③「夏休みの学習強化期間は効果的か」、「進路講演会・ガイダンスの内容は充実しているか」の項目で、保護者の評価が昨年より評価が向上している。ただし、「進路指導は一人一人の目標達成に役立っている」の項目で、保護者評価が昨年より向上してはいるが、「役立っている」としない保護者がまだ103名(昨年110名)いることが課題である。</p>	C
------	---------------	--	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	<p>互見授業やアクティブ・ラーニング型授業などの取組により、授業に対する評価は上がってきている。しかし、授業内容に満足していない生徒はまだ少なからずいるので、さらなる授業改善に取り組んでほしい。</p> <p>就職希望者全員内定、公務員合格者増など、進路指導は少しずつであっても成果を上げてきている。ただし、家庭学習や補習への取組みの面で課題が多く、国公立大学への進学率も伸び悩んでいる。1年生の時から、様々な進路情報を提供したり、卒業生の経験に基づいた話を聞かせるなどして、自覚を促してほしい。</p> <p>進路読書指導など新しい取組みに期待している。</p>	C
------------	---------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	(評価) A	<p>授業研修を充実させて、生徒の満足度を高めると同時に、学力をつけられるよう授業改善を図りたい。</p> <p>総合的な学習の時間やLHRの時間における、校外の方やOBの講演会、分野別のガイダンス、専門分野の読書などを通じて、1・2年生の時から進路について具体的に考える機会を充実させたい。</p> <p>家庭学習の重要性について、進路通信や学年通信でデータもまじえて繰り返し訴えていく必要がある。</p> <p>進学については、2年生の後半にスタートがきれるかが大きなポイントなので、2年部の進路検討会を早めることにより、担任から生徒への働きかけを早期化したい。また、PTA研修として夏に県立大訪問を実施し、家庭でも進路を早期に具体的に考える一助としたい。</p>	A
-----------------------	---------------	--	---

評価領域	特別活動の充実
------	---------

重点目標	健康な心身を養い、社会的連帯性と創造性を持ち、社会の変化に主体的に対応できる人間の育成。	P
現 状	創立30周年に向けて強化指定部を中心に部活動の強化に取り組んできたが、その中でも、昨年はサッカー部が全国選手権初出場を決め、弓道部は全国大会での入賞や東北大会での優勝、バドミントン部は4年連続のインターハイ出場などの成果をあげた。こうした活躍を硬式野球部や吹奏楽部をはじめ、部活動全体の活性化につなげていく必要がある。生徒会活動では、学校行事の一層の充実とともに地域に定着しつつあるボランティア活動にも積極的に参加している。	
具体的な目標	①生徒会活動の充実 ②部活動の活性化 ③心身の調和した発達	
目標達成のための方策	<p>①生徒会活動の充実・・・執行部を中心に、主体的な行事の企画・運営ができるよう指導する。地域との交流を深めるため、学校行事等について地域への周知を図る。</p> <p>②部活動の活性化・・・全国や東北レベルで活躍できる部の育成のため、ある程度的を絞った予算配分や補助等、学校全体としての支援体制を確立する。各部において適切で合理的な指導が行われるよう各顧問の意識を高める。</p> <p>③心身の調和した発達・・・文武両道の精神に則り、学業や部活動に高校生としての本分を尽くせるよう個々の自覚を促し、それぞれの目標に対する意欲を高める。</p>	D
具体的な取組状況	<p>①生徒会執行部を中心に、主体的な運営に取り組み、一般生徒の意見も行事に反映させている。学校行事を地域の広報紙等に掲載してもらうなど周知に努めた。地域の祭り等への参加は恒例となっており、一般生徒の希望者も募り参加した。各種ボランティア活動にも積極的に参加している。</p> <p>②事実上活動のない部の休止や廃止、各部の実績に応じた強化費の配分や遠征補助等により部活動の活性化を図った。各部の年間計画の作成や新規の外部コーチを委嘱することにより一層の競技力向上や部員・指導者の意識改革に取り組んだ。</p> <p>③「百三段の日」や学習強化期間の徹底により、部員の学習時間確保に努めた。また、部単位で勉強会を実施するなど部員の意識向上を図る取り組みも見られた。</p>	
達成状況	<p>①生徒会活動では、短い準備期間の中で工夫を凝らして取り組んだ新高祭や各クラスが結束した校内体育大会など、各学校行事を全校生徒で盛り上げた。また、地域の方々にも恒例となっている日吉神社の祭礼や大川散歩道雪祭り、栗田養護運動会ボランティア等、地域との交流活動にも積極的に取り組んだ。</p> <p>②今年度は、弓道部の男子及び女子個人とバドミントン部女子シングルスでインターハイに出場し、弓道男子個人では6位入賞を果たした。東北大会には、陸上競技部・バドミントン部・サッカー部・剣道部・弓道部が出場した。また、剣道部・バドミントン部・陸上競技部は、東北新人大会にも出場している。</p> <p>③百三段の日（部活動休養日）や学習強化期間の定着により、部活動の生徒も学習時間をある程度確保できる環境が整ってきている。進学や就職についても高い目標を持ち、進路目標を達成する生徒も見られるようになってきた。</p>	

自己評価	(評価) B	<p>(根拠) 部活動では、高い成績を上げた昨年に続き、全国大会入賞やIH連続出場など、競技力を維持している。県大会でも今後可能性を感じさせる部も見られた。新高祭や校内体育大会など学校行事についても、生徒アンケートでは「満足できる」の割合が増えている。</p> <p>①生徒会活動では、執行部を中心に工夫を凝らして各行事に取り組み、学校祭の一般公開では、悪天候にもかかわらず、多くの来校者で盛り上がっていた。また、地域行事やボランティアで地域との交流を一層深めている。</p> <p>②全国大会出場の弓道部・バドミントン部、東北大会出場の陸上競技部・サッカー部・剣道部等の他、今後の活躍が期待される吹奏楽部や硬式野球部を含めた一層の強化・支援体制の充実が必要である。</p> <p>③百三段の日や学習強化期間等により、部活動と学習を両立し進路目標達成に結びつけている生徒も見られるようになったが、保護者アンケートでは、まだ両立できている生徒が多いとは思わないという回答が多い。一層の意識改革が必要である。</p>	C
------	---------------	--	---

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

学校関係者評価と意見	(評価) B	<p>弓道部やバドミントン部の活躍は、本校を代表するものとして定着してきた感がある。それに刺激を受け、サッカー部や野球部・吹奏楽部等も全国レベルで活躍することを期待している。そのためにも、各部の練習場の補修等、環境の整備にも力を入れて頂きたい。また、文武両道は楽ではないが、決して実現不可能なものではないので、その方向性は今後も堅持してもらいたい。生徒会活動に関しては、執行部を中心に地域行事やボランティア活動に積極的に取り組んでもらっており、地域の一人として感謝している。今後も参加者を増やしていけるよう継続して欲しい。</p>	C
------------	---------------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>連続して全国大会に出場している弓道部やバドミントン部をはじめ、東北大会出場のサッカー部・剣道部・陸上競技部、地域住民の期待が大きい硬式野球部や吹奏楽部など部活動全体を一層活性化し、文武両道を実現していくためには、予算面や外部コーチ等指導者の配置、30年を超え老朽化の目立つ施設の整備など、できる限りの支援や環境整備が必要である。</p> <p>生徒会活動では、執行部を中心に積極的に取り組んでいる地域行事への参加やボランティア活動、毎年多くの来校者がある学校祭等の学校行事の内容を一層充実させ、全校生徒の結束や地域社会との繋がりをより深めていくことが重要である。そのためには一般生徒の意見も積極的に取り入れ、創意工夫や特色を活かした生徒会活動の運営が必要である。</p>	A
-----------------------	--	---